



生誕 130 年 記念講演会

芹沢銈介の 思い出

芹沢銈介の生誕 130 年を記念して、芹沢銈介と
親交のあった染色家・山内武志さん、東京造形
大学名誉教授・大橋正芳さんのお二人に、芹沢
銈介との思い出についてお話しいたします。

講 師 山内武志（染色家）
大橋正芳（東京造形大学名誉教授）
日 時 2025（令和7）年 11 月 23 日（日・祝）
18：00～19：30
定 員 90 名
会 場 芹沢銈介美術館 D 展示室
参加費 無料（ただし観覧料が必要です）
申込み 静岡市コールセンター（054-200-4894）
へお申し込みください。※先着順
申込期間：10/8（水）～11/13（木）

この他、ギャラリートークなどのイベントを開催します。
詳しくはホームページや公式 X をご覧ください。

日曜・祝日は、当館の附属施設
「芹沢銈介の家」の公開日です。



芹沢銈介は 1957 年、宮城県登
米市の板倉を東京・蒲田の自邸
内に移築し、改装して応接の場
としました。芹沢の没後 1987 年
に、東京・蒲田から現在の場所
に移築され、公開しています。

●公開日
美術館開館日の日曜と祝日
●時間 9：00～16：30
●観覧料 無料

【開館時間】9：00～16：30

【休 館 日】毎週月曜日（10/13、11/3、11/24は開館）、
10/14、11/4、11/25

【観 覧 料】一般 420 円/高校生・大学生 260 円/
小学生・中学生 100 円/未就学児無料

（団体割引は 30 名以上でご利用いただけます）

※静岡市内在住の 70 歳以上の方・小中学生（通学含む）無料

※障がい者手帳等の提示により本人及び同伴者 1 名無料

【交 通】

<バ ス> 静岡駅南口 22 番バスのりばから
「登呂遺跡」行き乗車。約 10 分終点下車徒歩 3 分
<タクシー> 静岡駅南口から約 10 分
<東名高速> 静岡 IC または日本平久能山スマート
IC より約 10 分
<駐 車 場> 登呂公園南側に有料駐車場があります
（400 円 / 1 日）



静岡市立 芹沢銈介美術館

静岡市駿河区登呂五丁目 10-5 TEL▶054-282-5522
HP▶www.seribi.jp X（旧 Twitter）▶[@seribi_shizuoka](https://twitter.com/seribi_shizuoka)

「布文字春夏秋冬二曲屏風」の型紙（1965）より「秋冬」❶



芹沢銈介
生誕 130 年記念展

型紙

KATAGAMI

美しい
染物への
約束

2025
10/7❶▶12/7❷

【出品協力】東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館

静岡市立 芹沢銈介美術館

静岡市駿河区登呂五丁目 10-5 TEL▶054-282-5522
HP▶www.seribi.jp X（旧 Twitter）▶[@seribi_shizuoka](https://twitter.com/seribi_shizuoka)

❶「布文字春夏秋冬二曲屏風」の型紙（1965）より「春夏」



● 色差しをする 85 歳の芹沢銑介（1980）



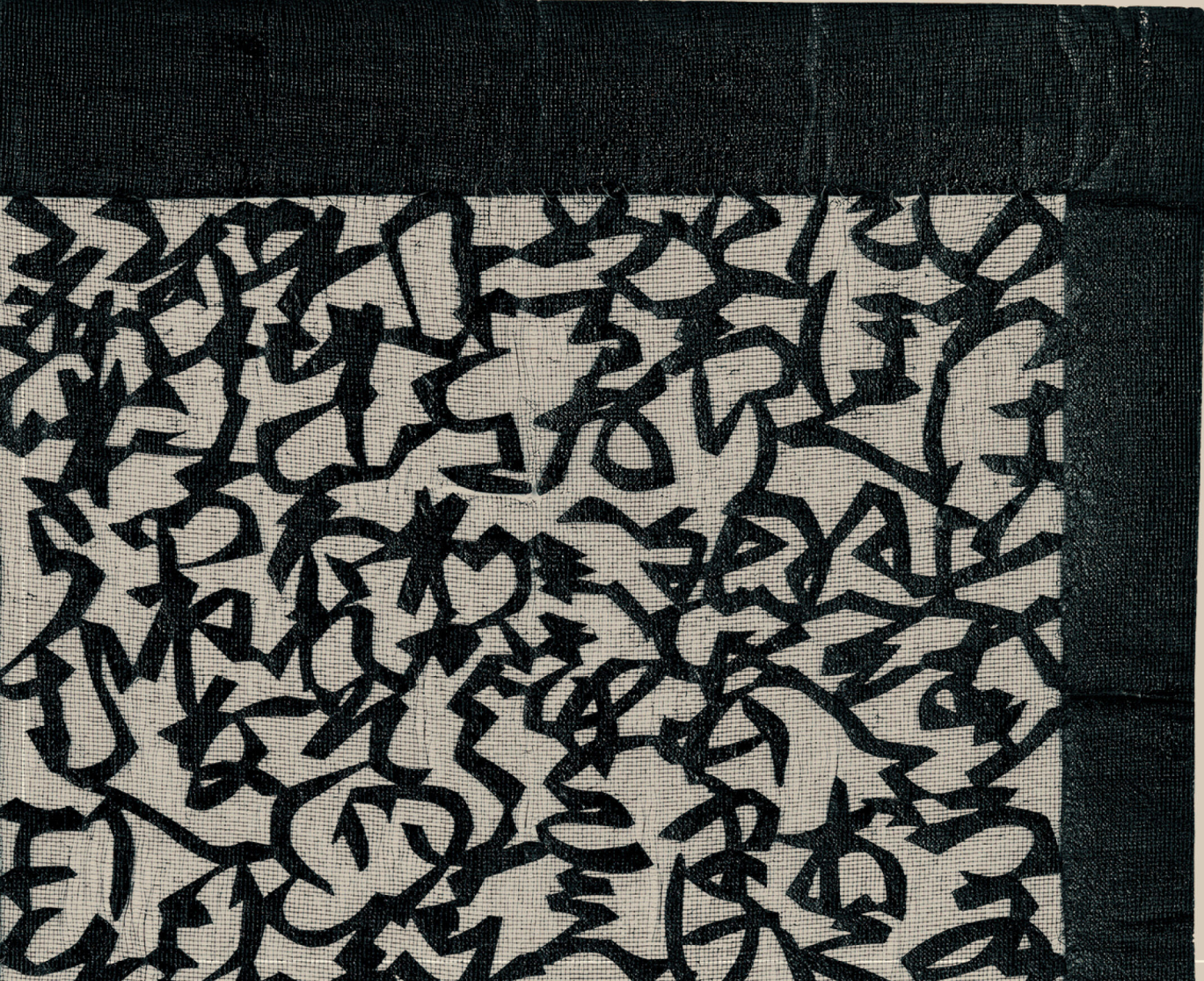
● 「津村小庵文帯地」（1967）



● 「津村小庵文帯地」型紙（※）



● 「いろは文字文帯地」（一九五八）



● 「いろは文字文帯地」型紙（※）

10 代に画家を夢み、20 代にデザイナーとして活動していた芹沢銑介は、30 代半ばになって染色家としてデビューし型染を始めました。型染は、「型紙」の上から糊を置くことで防染する間接的な染色技法で、芹沢はこの技法の特徴を活かして数々の傑作を制作し、国内外で高い評価を得ました。

一方、芹沢が彫った型紙そのものの美しさも高く評価されています。「型紙」は、和紙を柿渋で貼り合わせた渋紙に下絵を貼り、小刀で彫ることで作られます。しかし芹沢は下絵の通りに彫るのではなく、頭の中で模様を思い描きながら、その場で絵を描くように彫り進めます。こうして完成した型紙は骨格となり、後の工程で変化を加えながら数々の作品を生み出していくことになります。

40 歳のとき芹沢は、沖縄の伝統的な染物「紅型」の型紙について、「よき型紙は美しい染物を約束する、そしてそれ自身美しい」と記していますが、芹沢の型染作品も、型紙に約束された美しさをもっているといえるでしょう。

芹沢銑介の生誕 130 年を記念する本展覧会では、東北福祉大学芹沢銑介美術工芸館（仙台）が所蔵する芹沢の型紙を中心に、「美しい染物への約束」ともいえる芹沢銑介の型紙の世界をお楽しみいただけます。（※は東北福祉大学芹沢銑介美術工芸館蔵）

「よき型紙は美しい染物を約束する、そしてそれ自身美しい。」

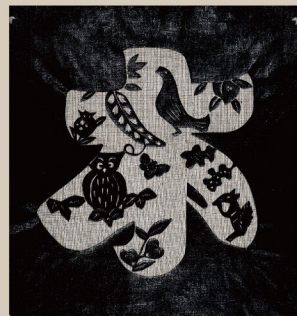
「型紙に付て」（一九三五年「工藝」第五十号）挿絵解説（より）



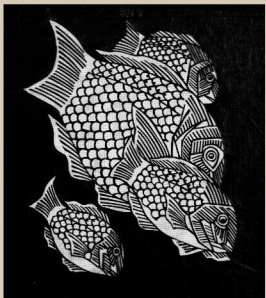
● 「秦文帯地」型紙（※）
● 「秦文帯地」（1949）



● 「木の字」（1971）



● 「木の字」型紙（※）



● 「鯛泳ぐ文着物」型紙（※）
● 「鯛泳ぐ文着物」（1964）

はぐくんで来た模様が形をとり、それを下絵として型ほりに専念する時、行程中最も集中感を味う。家の建前にも似た欣び。（中略）

型紙は型染の骨格で、続く諸工程が如何あろうと、結果は一にこれにかかる。徒らに技におぼれず、図案に遠慮せず刀を進め、紙をさざみたい。

「型染の工房から」（「婦人画報」1957 年 2 月号）

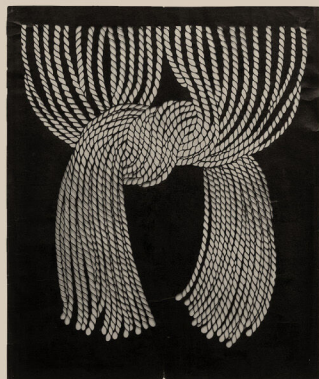


● 「一九六八年一月カレンダー」型紙

● 「一九六八年一月カレンダー」（一九六七）



● 「知恩院大殿内陣柱簾布柱巻下染」左部分（一九七四、その型紙（右）



● 「縄のれん文のれん」型紙（※）
● 「縄のれん文のれん」（1955）



● 「漁具文部屋着」（1958）
● 「漁具文部屋着」型紙（※）

